

(様式2)

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570600948		
法人名	株式会社 加治川の里		
事業所名	グループホーム加治川の里		
所在地	新潟県新発田市向中条2843-1		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=1570600948-00&PrefCd=15&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県介護福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2		
訪問調査日	令和2年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

稲作の農地と楡形山脈に囲まれた地域に位置し、季節の移り変わりを自然と感ずることが出来る環境にあるグループホームです。中庭には畑や果樹があり、収穫や作業を通して季節や昔のことを思い出したり、共同作業を通してホームでの仲間作りができるようにしています。ユニットから見える中庭からも季節を感じ、農村地帯の幼いころから見慣れた稲作景色眺めながら、穏やかな生活を各々のペースで過ごしています。

開設から16年目となり毎月1回開催する「よらいすカフェ」によって少しずつ地域交流が出来てきました。毎年、地域の行事クリーン作戦やお宮掃除などに参加、8月13日に行われる仮装盆踊り大会に仮装して参加したりと地域行事の参加をしてきましたが、今年は新型コロナウイルスの流行のため、地域活動もできなくなっています。傾聴ボランティアや太極拳も先生も通常であれば来ていただいて、利用者様と顔見知りの関係でしたが、現在は中止しています。早くこの新型コロナウイルスが終息し地域の交流が再開することを願っています。

利用者様とご家族様で会食をしながら楽しめるようにと今年1月に新年会を開き、大勢のご家族様が参加されました。利用者様を中心としてご家族様やホームが円滑な関係であるように働きかけをしています。ホームには看護師が常勤で勤務し利用者様の健康管理など医療的なケアや連携を行っています。ご希望により最後までホームで過ごす看取りケアも実施しています。日頃の利用者様を中心としたご家族様やホームとの円滑な関係の働きかけが重要であり面会や電話での話などご家族様との関係を大切にしています。私たちが利用者様と生活を共にする時間は人生のエピローグだと思いますが、このご縁を大切に利用者様や家族様がグループホーム加治川の里に入居して良かったと思っていただけのホームを目指しています。弊社理念である「感謝の気持ちに真心こめて」を職員ひとり一人が心に描きながら、思いを込めて支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○恵まれた生活環境と利用者への継続した支援の想い

グループホーム加治川の里は、2ユニットの16年目を迎えた。地域に暮らす人たちの誇りである桜並木が続き、楡形山脈が望める自然豊かな環境に恵まれた事業所であり、敷地内にはデイサービス事業所も併設されている。事業所の食堂から続く、芝生の中庭には花や野菜畑、実のなる木々も利用者の気持ちを和ませてくれる。今回の訪問時には、利用者は生き生きとした表情で、干し柿作りに励んでおり、明るい日差しと緩やかな時間が流れていた。利用者への継続した支援のために積極的な研修が実施されている。管理者はじめ職員は社内研修やオンデマンドで研修し、研修記録を提出しながら課題に取り組んでいる。また、かかりつけの医師には利用者それぞれのケアプランが届けられ、管理者、職員、看護師は利用者の状態の把握に努めている。状態の低下や家族との話し合いを続けながら、いま何がその人に必要なのかを実践しようとしている。看取りケアを望まれた場合にも、居ごち良く落ち着いた雰囲気の中で、いつもの生活への支援に努めようとしている。

○医療・介護・家族との連携による看取りへの想い

事業所の取り組みの中で特に強く印象に残ったのは、いつ、何が起こるか？変化のある高齢者の介護の中で、「一人の命を支え・見おくる」という看取りの介護への取り組みは、医師や看護師・管理者はじめ、職員、そして家族の協力と支えの裏付けが不可欠である。「今しか共にできない」そして「より一層寄り添う気持ち」を管理者はじめ職員は、大切にして日々のケアに活かしている。事業所に訪問される家族から「この時間を共に過ごせたから、寄り添う気持ちと覚悟もできた。ありがとう」との言葉に励まされ、尚一層連携に努めている。今後も期待したい事業所である。